

龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊
 発行編集所 〒959-1502
 新潟県南蒲原郡田上町
 曹洞宗 東龍寺
 電話 (0256) 57-3395
 FAX (0256) 57-2174
 ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/ryusei/>
 E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

東龍寺 授戒会 (大正13年)

前列中央：大本山總持寺貫首 新井石禪禪師
 斜 左 後：雲洞庵住職 新井石龍老師
 前 列 右：東龍寺二十世黙拳是笑大和尚

開山四百五十回忌並びに先住忌、

県曹青主催授戒会を迎えるに当たって

東龍寺住職 渡辺宣昭

今年、東龍寺では、新潟県曹洞宗青年会(四十五歳までの県内曹洞宗僧侶が加入している団体、以下「県曹青」と呼ぶ)のお力添えと、檀信徒のご理解とご協力により、大本山永平寺貫首・福山諦法禪師をお招きして、五月三十日(六月三日)に大行持を二つ迎えることとなりました。一つは御開山の四百五十回忌並びに先代・先々代の年忌、もう一つは県曹青発足三十周年記念授戒会です。

一昨年十一月十三日夕刻、特派布教巡回で、伊豆半島の先端に近い下田に滞在中、青年会会員で、師匠の実家・種月寺副住職寒河江文洋師より、「県曹青三十周年事業で授戒会を行いたい。ついては、その会場に東龍寺を提供してもらえないか。」との電話が入りました。県下八百カ寺以上の曹洞宗寺院の中で、拙寺を選んでくれたことに少なからぬ喜びを覚えました。寺に帰り、家族の了解を得て、二度の会議を経て、総代・世話人にも理解と協力を得る事ができ、昨年春彼岸会の折、檀信徒にも周知し、正式にお受けすることになりました。

当山は、平成二十五年(二〇一三年)に、開山の四百五十回忌を迎えます。また、寺を山懐に抱く護摩堂山に弘法大師空海の流れを汲む空法上人により、八一四年に草庵が結ばれて、まもなく一一〇〇年が経ちます。思い起こせば、四百回忌は小生が小学二年生の時、先々代二十一世是戒弘道大和尚が、塩沢の雲洞庵住職・新井石龍老師をお招きして、檀信徒の泊まりがけの大法要を厳修されたのを

うつすらと覚えております。五十年に一度の御遠忌に住職を勤めるご縁を頂いて、報恩の行持を行いたいと思案をしておりました。若し、叶うなら報恩授戒会をとの思ひも、この世界同時不況の中、檀信徒の負担も大きくとても無理と諦めていたところに、小生の願いが伝わったかのように五日間の授戒会の依頼を戴いたのです。東龍寺では、大正十三年二十世黙拳是笑大和尚代に、大本山總持寺貫首・新井石禅禅師(四百回忌)おいでの石龍老師の師匠)を戒師にお招きして行って以来となります。

授戒会では、小生は、戒師大禅師様に代わり、仏の教えを説く説戒師という大役をお勤めさせていただくこととなります。最初、県曹青から依頼されたとき、力も経験も無い私にはとても無理と思いました。しかし、布教の道を志す身にとって、戒を説かせていただく場合は、最高の法座です。敬慕する老師に相談した処、「あなた、経験が無いといつていつ経験するんだね。力量が無いといつて、いつ力量がつくんだね。勉強だと思つてやつてごらん下さい。」との後押しをいただき、有り難い勉強の機会を戴いたんだと前向きに受け止めお勤めする所存です。

昨年五月、高野実行委員長以下、五名で、永平寺にお願いに上がりました折、福山禅師より「私は精一杯つとめました戴きます。随喜の皆さんの一生懸命さが戒弟に感動を呼ぶのだから、そのつもりで勤めて貰いたい。」とのお言葉を頂戴いたしました。県曹青の皆さんが発願をされて、自らの研修の場として授戒の道場を作られるわけですから、大勢の中の一人ではなくて、随喜される一人一人の力が結集してこそ、授戒会が円成できる

新編 曹洞宗青年会三十周年記念事業
戒師 大本山永平寺 福山禅師 下御親修
主 新潟県曹洞宗青年会
後援 曹洞宗・曹洞宗新潟県内各宗務所

平成22年5月30日(日)～6月3日(木)
南蒲原郡田上町 東龍寺

永平寺は

ものと思えます。そして、その力により、参加修行される戒弟の皆さんが、真の信仰に目覚め、尊い仏の教えを身につけ心に刻み、人生を豊かに生きる智慧を学び、その後の人生を仏弟子として修行していくスタートをきることができると確信します。お釈迦様は、善き友と修行する事の大切さを次のようにお示しくださっています。

『お釈迦様の弟子・アーナンダがお釈迦様に問うて言った。「私どもが善き友をもち、善き仲間とともにある」といことはすでにこの聖なる道のなかばを成就したにひとしいと思われます。この考え方はいかがでしょうか。』

お釈迦様が答えて言われた。「アーナンダよ、それは違う。そういう考え方は正しくない。われらが善き友をもち、善き仲間と共にあるということは、それは、聖なる道のなかばにあたるのではなく、まったくすべてなのである。』」

この授戒会が、聖なる道を求める僧侶と戒弟が共に修行する集いの道場となることを心より願っております。

授戒会初日に、開山四百五十回忌並びに先住忌法要の導師を永平寺七十九世・福山諦法禅師に御親修賜りますことは感激に耐えられません。今年も師匠・天盈昭光大和尚の正當二十七回忌になり、平成十二年に故七十八世宮崎突保禅師に坐禅堂の開単法要に併せて、十七回忌を御親修いただいたことを思いますと、二代の禅師様に御焼香賜るとは、これほどの報恩供養はありましようか。当寺本尊・大聖不動明王、御開山並びに歴代住職そして師匠が、きっと、大きな法力をお与え下さることを信じて、県曹青諸兄と共に大行持が無事勤まりますよう衷心より願ひ精進して参ります。

授戒会開催のご挨拶

新潟県曹洞宗青年会
三十周年記念事業実行委員長
小千谷市 真宗寺住職

高野 義範

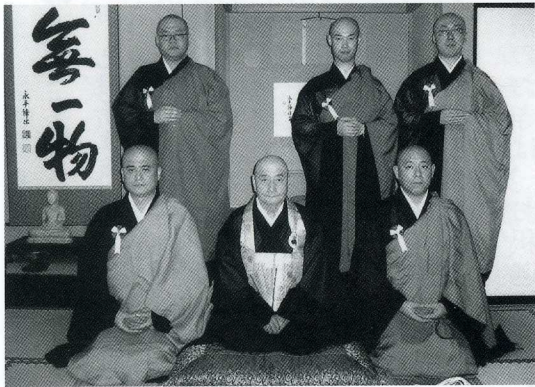
この度私達、新潟県曹洞宗青年会三十周年記念事業とい
たしまして、東龍寺様を戒場とし、曹洞宗宗門で最も重要
とされており「授戒会」を大本山永平寺の禅師様をお
招きして開催いたします。

授戒会とは、五日間（御本山では七日間）ご修行してい
ただくことにより、自らの心と体を清浄にし、今後仏さま
の弟子として生きて行く誓いを立て、その証としてお血脈
とお名前（一般に戒名と言われるものです）をいただく儀
式の事を言います。

ご修行と申しましても御本山の修行僧のような過酷なご

修行ではございません。
早起きをしていただくこ
とは辛いご修行でしよ
うが、日中は禅師様や説戒
師様から教えをいただい
たり、様々なご供養の法
要にご参列いただきます。
休む間もないと言うよう
なご修行ではございませ
ん。むしろ、バタバタし
た日常を離れ、自分を見
つめ直す時間を過ごして
いただけるのではないか
と思います。

今回の記念事業開催に



5月14日 永平寺拝請の折
福山禅師 前列中央、筆者 右隣



2月23日（火）より始まった毎週一回の進退馴し
於：東龍寺

住職様自信、青年会のお役を務められた事もあります、
それだけでなく、常に宗門、何より檀信徒の皆様方の幸せ
を願っている御住職様のお気持ちがあればこそだと思いま
す。これほど有り難いことはございません。

ご修行と聞くと「自分はちよつと」と避けられる方も
多いと思いますが、お釈迦様、お祖師様の教えは分け隔て
無く総ての人々に平等に行き渡ります。このようなお授戒
の機会はそのようございませぬ。

御仏の教えに出会ってみてはいかがですか。
お待ちしております。

〜 住職より一言 〜

合 掌

毎週五十名近い青年僧侶が全県各地から、進退馴らしに
通ってこられます。道心のある青年僧侶に囲まれて、曹洞
宗の未来は明るいと実感しております。

際し、戒場選定が非常に
大きな悩みでした。常に
二百人近い人がお寺の中
で修行されるというこ
とは、御住職様や奥様方
のご負担が非常に大きい
からです。しかしながら、
私達青年会の授戒会開催
の思いを東龍寺御住職様
が汲み取って下さり戒場
を提供して下さいました。
立地条件・伽藍設備等々
これ以上ない環境でお授
戒を開催出来ますことは
この上ない慶びです。御

仏の救い、仏の力

光明寺住職 生沼宏祥

去る平成二十一年十月三、四日に田上町横場にあります光明寺にて、晋山式をあげさせていただきました。「晋山式」とは「山にすすむ」という意味で新しく住職をお寺に迎える法要です。本寺であります東龍寺方丈様からは「西堂」という重要なお役をお勤めをしていただき無事に勤めることができました。心より御礼申し上げます。

晋山式の中で未熟ながら初めての説法をさせていただきました。以下は晋山式でお話した内容です。



晋山式での説法 (10月4日)

禅宗のお寺は、お釈迦様の正しい教えを多くの方に広めることが一番大切な事です。ですからお釈迦様の教えをお話いたします。

お釈迦様がお説きになった教えはたくさんございます。その教え中のひとつに「無常」というものがあります。世の中は無常であり常に移りゆくものです。我々人間だけでなくすべての生き物には寿命があります。寿命は生き物だけでなくこの世にあるすべてのものが平等に寿命をもっています。つまりいつか必ず亡くなる命なのです。いつか亡くなると考えると寂しい話です。しかしだからこそ「今を生きる」事が大切なのです。今を生きる」とはどういうことでしょうか？私から提案させていただきます。



先代忠爾大和尚、吉周忌 (10月3日)

私とともに「今を生きる三箇条」を実践しお寺とともに歩んで行きましよう。

光明寺すなわち「光り輝く明るい寺」。まさに今を生きる輝きです。一瞬の輝きだからこそ頑張れる。一瞬の輝きだからこそ未来がある。

光り輝く明るいお寺から皆さんに光り輝く明るい未来をお届けします。一緒に今を生きていきましょう！

住職より一言

合掌

平成二十年十一月、光明寺の先代・立川忠爾老師が遷化されました。私が住職になってから、ずっと支えてくださった大切な方丈様でした。その葬儀を立派に進めてくれたのが、東龍寺の本寺吉祥寺の若方丈でもある後任住職の生沼宏祥師です。その一年後、その人柄のように明るく晴れとした秋の良き日に立派な晋山結制式を挙げられました。

現在は、東龍寺檀家の通夜・葬儀には必ずお手伝い頂き、小生が寺を空けるとき、檀務を安心してお願いできる欠かせぬ存在です。今後とも宜しくお願ひします。

「今を生きる三箇条」
その一 この今を大切に！
その二 常に前向きに！
その三 過去にとらわれない

これが私からの「今を生きる三箇条」です。当たり前のことなのですが、なかなか実践するのは大変なことです。今ここに

秋の講演会に参加して

(平成二十一年十月十一日)

新潟市秋葉区矢代田 田 卷 晴 雅 はるお

堀川英子先生（田上小学校時代の先生）に誘われ、東龍寺様へ秋の講演会に行つて来る事ができました。

私は、平成十六年五月四日の夜、二回目の脳梗塞で倒れ、二十四時間以上経つた五日の夜中に、五泉市の病院に運ばれて行かれましたので、死んだものと思っていました。平成十七年の三月に退院した時には車椅子に乗っていました。六月に新潟市北区の病院に再入院した時に、このままでは絶対に駄目になると思い、十月の退院の時に、車椅子を返してしまつたのが良かったと思っています。

私は右半身不随ですが、去年の七月に普通免許（限定）を再び取らせていただくことができました。そして堀川先生をお乗せして東龍寺様へと向いました。歩く速さは普通の人の十倍も



田卷晴雅氏と堀川先生

かかります。もちろん走つたりすることもできません。玄関に到着するだけでも大変で、靴を脱ぎ、階段が三段だけあるのですが、その一段一段の高さにはびっくりしたことを思い出します。

落語家「露の新治さん」の「新ちゃんの笑い人権高座」は、笑顔で暮らす・願いに生きると言うことでした。「笑う」と言う字は、「たけかんむりに犬」と昔は書いた、と言うことには納得させられました。



露の新治さんとインディさん

共演の大衆ソウルシンガー「インディさん」の「ボウリングだよ人生は」を始め、数々の音楽にも魅了させられました。終わった後で、「インディさん」のCDを買い、サインをしていただきました。道なき道を突き進んでください。帰り道は、住職の渡辺宣昭様のお母様より、遠回りでもこちらから行かれた方が良いでしょうと言ふことで、少し回り道になりましたが、駐車場までゆっくりと一緒に歩いていただきました。

私は左半身は自由に動きますので、それだけでも有り難いことだと思つています。右半身をかばいながら、これからもやつていきますので、よろしくお願い申し上げます。

住職より一言

田卷晴雅氏とは、昨年の正月五日の年始回りでお宅へお邪魔してから特に親しくお話しようになりました。それというのも共通の知り合いである堀川先生のお蔭かもしれません。

人は一人では生きていけない、支え合つて、助け合つて生かさせてもらっている存在である事をお二人との交流を通してより深く感じるようになりました。

お元気で、益々お付き合ひが深まりますように願つております。

自分が親となつて

湯川 小池 孝宏

東龍寺様には中学生の時に勉強会で大変お世話になりました。当時は勉強が苦手で先生には面倒な生徒だったと思います。案の定勉強の記憶はあまりなく、一番の思いでは本堂に泊まりで合宿した記憶だけが鮮明に覚えています。「絶対本堂では寝れないでしょう」とビクビクして友達に寝ないように頼んだのを今では笑い話ですが覚えています。私は先生と生徒という間柄ではなく亡くなったおじいちゃん、おばあちゃん、と家族ぐるみのお付き合いをさせていただきました。毎年お墓参りにくるたび先祖に「一年間ありがとうございました。また一年よろしくお願ひします。」と報告するのですが、一年また一年と守る家族が増えてその責任を実感させられる場でもあります。



長女 さくら (1歳6ヶ月) 長男 遥太 (4歳)

自分も親になって始めて経験することが多くて毎日が辛くもあり楽しくもあります。仕事が終わって家に帰ると迎えてくれる子供が物凄く愛おしく感じてどんなに辛い事でも、子供の為だと思ふと頑張れるから本当に家族の素晴らしさ実感して毎日です。

仕事柄、田上にいるのでちょくちょく先生を拜見するのですが、その度に『しっかりしないとな、先生に恥ずかしい姿は見せられないな』って、喝を入れられるような気がして緩んでた心が正される感じがしてなんとも言え

ない緊張感があり、自分を見直すきっかけでもあります。これからも毎年お墓参りに行くわけですが、先祖に先生に恥じないように家族を守っていきたいと思います。一概に守るなんて簡単なことではないのも十分わかっています。先生が教えてくれた事を思い出し、自分でも一生懸命考えて、その時その時の時間を大事にして、間違っても急がず回り道でもいいんで子供の手本になれば最高だと思います。もし考えに行き詰まったらアドバイスよろしくお願ひします。

ゝ 住職より一言ゝ

小池孝宏君は、双子の弟・浩二君と一緒に、昭和六十三年中学入学し、三年間、勉強に坐禅に通ってくれました。とても気持ちのしっかりした中学生でした。地元就職し、結婚、可愛いお子さんもできて、何よりです。

祖父の権一郎氏(平成十一年逝去)は、師匠が急逝した昭和五十九年当時の筆頭総代で、未熟な私をよく支えてくださいました。自分の家のように寺のことを気にかけてくださり、おいでになると、必ず孫の孝宏君たちの話をされていたのを懐かしく思い出します。これからもご先祖を大切にして、ご精進下さい。

曹洞宗 心の電話 ○一二〇一五〇八一七四〇

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、三分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。二十四時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

東龍寺住職も平成十八年度より、年二回担当しております。本年度は、五月十一日〜十七日、十一月二日〜八日です。

曹洞宗心の電話（一月十九日〜二十五日）東龍寺住職の法話より

三度考えて

一月二十六日は西暦一二〇〇年にお生まれになった道元様の八一〇回目の誕生日です。八百年の時空を超えて現代に生きる数々の教えの中に「人にものを言おうとする時、三度考えて、自分のためにも他人のためにも利益のあることならば言うのがよい。利益がなさそうなきには言うのをやめるべきである。」というお示しがあります。

東龍寺では、毎週水曜木曜の夕方、門前の温泉旅館にお泊りの希望者に坐禅体験をさせていただいております。様々な地域からお越しの方に坐禅指導をし、終わって、お話をするのがとても新鮮で楽しいものです。ところが、先日来られたグループのお一人が、何かにつけて文句を言われるのです。

「何で名前を書かなければいけないのか」「何で靴下を脱いで裸足になるのか」

坐る指導を始めると急に「イスにしてくれ」とか。坐り始めてもキョロキョロしたり、手の組み方を教えてもすぐに崩れます。

挙句の果てはイスで脚を組んだりするのです。

私は、怒りがこみ上げてもう少して口から出そうになった時、道元様の教えがふつと頭に浮かび、ぐつとこらえて「この方は温泉についてくつろいだ貴重な時間に、坐禅修行に来てくださっている。気持ちよく坐っていたらこう。」と思い直しました。

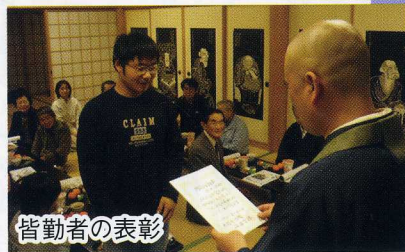
彼は、だんだん落ち着いて、最後まで坐わり、終わってお話をすると「とてもいい体験をさせてもらった」と喜んでくれました。「あの時、怒らなくて良かったなあ」とつく

づくお思いました。怒りがこみ上げた時、相手の為にも自分の為にも言うべきかどうか考えてみる道元様の教えに自らを律することができました。皆さんも是非この教えを心掛け努めていただければと念じております。

●月例坐禅会二十五周年を迎えて 十二月十二日



本堂で、成道会の後、参禅者一同で



皆勤者の表彰



●田上小学校3年生 樹齢700年の東龍寺大杉を見学

●第九回

眼蔵会から



受戒の巻を提唱される角田先生

五月二十一〜二十三



受講風景



坐禅堂での飯台の様子

【東龍寺年中行持】

七月 金毘羅大祭
八月 一日 うらばん会(盆参)
八月廿四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
九月廿三日 秋のお彼岸会
(お彼岸の中日)

十月 十日 常齋米法要
十月三十一日 除夜祭(除夜の鐘)
大般若祈祷会

一月 一日 寺年始(近隣の檀家)
一月 二日 寺年始(遠方の檀家)
三月廿一日 春のお彼岸会
(お彼岸の中日)

【平成二十一年度事業、行持報告】

一、五月二十一日(木)～二十三日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第九回眼蔵会を講本「受戒の巻」で、開催した。

一、七月八日、第二十回金毘羅大祭を修行。昨年行った階段等の整備の報告をした。

一、七月六日(日)～八日(火)、「秩父三十四ヶ所観音霊場巡拝」の旅を行った。

一、十月十一日(日) 午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、落語家・露の新治師匠をお招きし、第十四回秋の講演会を行った。

一、十月十三日～十一月二七日にかけて、庫裏改修工事を行った。

【参禅の報告】

一、四月二十四日「第二九回卯辰会の集い」(代表三条市・内山莊一)十七名参禅。

一、六月四日、新潟日報「癒し坐禅」を取材。十九日夕刊に載る。

一、七月三十日、田上町社会福祉協議会ボランティアチャレンジスクール「十七名坐禅体験」。

一、九月十九日田上小学校親子坐禅体験七八名。

一、九月二六日国体空手(少年男子形)選手・藤原貴哉君、小日向コーイチと共に参禅し、十月二日新潟国体で見事優勝された。

一、十一月十八日、田上ライオンズクラブ坐禅例会。十三名。

一、一月九日(土) 月例坐禅会を新潟日報記者が坐禅体験取材し、十九日朝刊に掲載された。

【平成二十一年度事業、行持案内】

一、五月三十日に開山・般山祖吉大和尚の四百五十回忌、並びに先代の二七回忌、先々代の三三回忌法要を大本山永平寺不老閣下への御親修により、お勤めする。

一、五月三十日(日)～六月三日(木)に、新潟県曹洞宗青年会の主催による授戒会が東龍寺を戒場に大本山永平寺不老閣下を戒師に拝請し行われる。

一、七月五日(月)～六日(火)に、「越後三十三ヶ所観音巡拝の旅(二回目、満願)」を行う。

一、九月六日(月)～八日(水)に「庄内三十三ヶ所観音巡拝」を行う。

一、十月十一日(月) 午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、「前大本山總持寺後堂・喝破

道場主・香川県報四恩精舎住職野田大燈老師」をお招きし、第十五回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市穀町商店街振興組合二階を貸り、僧侶八名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習を行っています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【その他の照光殿での催し】

一、大正琴のお稽古を先生をお招きし、有志で行っております。興味のある方、のぞいてみませんか。

【お寺よりの御礼とお祝い】

一、三条・渡辺喜彦氏より、高圧洗浄機用動力工事として戴いた。
一、山田・酒井金雄氏より、十三尊仏掛け軸をご寄付戴いた。

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解と

ご協力の程、お願いいたします。

【お盆前住職】 新潟・亀田・三条・巻・燕・白根・長岡

【十三日住職】 新潟・寛路津

【東岸寺若様】 中山・赤洪・笠巻・三ツ屋・三枚湯・市ノ瀬

【お盆中住職】 湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋・羽生田・川船河

【光明寺様】 川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場・加茂地区

【少林寺様】 上野

【少林寺若様】 本田上

編集後記

寺報二十二号を発刊するに当たり、高野義範師、生沼宏祥師、田巻晴雅氏、小池孝宏氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。この度の小池君の寄稿に「先生に恥ずかしい姿は見せられないから、しっかりとしない」という文言がありました。見ている私の方こそ、教え子に見られていることを忘れずに己を律していかなければと肝に銘じております。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。

また、五月末の開山・先住忌並びに授戒会に一人でも多くの檀信徒の方々がご縁を結んでくださいますようお願いしております。

尚、本年は授戒会修行の為眼蔵会はお休み致します。 住職 合掌